CORE
Metadata, citation and similar papers at core.ac.uk
Provided by Kanazawa University Repository for Academic Resources

――はじめに――

「利用の手引き特集　文章処理編」　発行にあたって

教育小委員会委員長　関崎　正夫

計算機の急激な進歩は、この数年のうち、本来のいわゆる計算処理の他に、文章の編集清書も可能にした。本センターでも日本語および英語の文章処理ができるようになり、そのための利用の手引きが発行されている。

この特集は、これらの手引きを集めたもので、前二編は英語、後四編は日本語の処理方法を初歩的なものから高度なものへと並べたものである。

英語の処理は、科学者のための英論文編集清書といわれているように、活字指定や数式の清書もでき、理工系の論文の編集に適している。

英文の原稿の準備ができたら、まず入門編を読みながら、ＴＳＳ端末から、そこに書かれている方法によって入力してみる。ある程度慣れたら（タイプ用紙数枚程度の論文が計算機のＮＬＰから出力できる程度）、次の編を読んで、特殊な処理方法を試みられたい。

また、日本文についてはローマ字入力と日本字入力の２つの方法があるが、多くの人は英文タイプに慣れていると思われるので、最初はローマ字で入力する方法をとれば親近感がでてくると思う。更に日本文の中に数式や図形をいれたり、出力のスタイルを変えたりすることもできる。

以下に手引きの概略を紹介する。

◎英論文編集清書機能（ＡＴＦ）入門

マイコンのワードプロセッサー使用の経験もない初歩者が、英論文を編集したり清書したりするための入門書である。基本的な使い方はほとんど示してあるので、これ一つで一応の論文および数式の処理ができるようになる他、富士通の英論文編集清書機能（ＡＴＦ）への橋わたしをするものである。

◎ＡＴＦ（英論文編集清書システム）使用方法

利用者のためのＡＴＦの紹介とセンターで作成したコマンドについて紹介してある。上記入門編でほぼ概略がつかめた人がコマンドについて詳しく知りたい時に便利である。

◎計算機による日本語文書の作成

日本文の作成にローマ字を用いる方法を示したもので、英文タイプはできるが和文タイプができない人のための初歩的な手引きである。式や図などを含まない日本文の処理ならこれ一つで充分役に立つはずである。

◎日本語文章処理システム入門（その１）―日本語エディタの入出力方法

前記の手引き中で簡単に触れた、改行、改ページ、表や脚注の入れ方などについて、細かい注意をも含めた具体的な説明がされている。

◎日本語文章処理システム入門（その２）―図版組み込みのいろいろ

日本語の文中に図を入れるための手続き、およびその図を作る方法について説明されている。ここでいう図には、英文、数式、イタリック文字を含む。

◎日本語文章処理システム入門（その３）―図形作成システム

その２の図の作り方の応用ともいうべきもので、四角形、三角形、直線、曲線を組み合わせてフローチャート等の複雑な図を作る方法、ならびに文章のスタイル―文字の大きさ、ページの大きさ、向き―を変更する方法が示されている。この手引きはシステムの開発者自身の手によるもので、かなり高度の内容である。

以上６編の手引きで大抵のことは出来るが、詳細は、各手引きに引用されているマニュアルをみればよい。個々の手引きは２年あまりにわたって教育小委員会のメンバーにより、内容、表現について討論がくり返されて出来上ったものである。そして原稿の入力、絵の製作は、計算機センター職員の努力によるものである。また、この特集の編集、発行を通じて、教育小委員会およびセンターの活躍ぶりを紹介していただいた広報小委員会各位に感謝する。